

平成27年度事業報告

● 基本方針

公益法人移行後2年目を迎え、新体制のもと協会運営の健全強化と連携につとめた。

昨年は「るべしべ」「美幌」アイヌ協会が発足し、49地区協会の体制となった。一方、本会員の減少傾向にあることを踏まえ、少人数の地区協会を訪問し相互の連携と組織強化に努めた。

国と道が進める「アイヌの人たちの生活向上に関する推進方策」及びアイヌ文化財団の行う各種事業の執行や内容充実を図るため、各関係機関との連携を保ちつつ政策検討や事業実施について働きかけた。

また、国が取り進める「民族共生の象徴となる空間」については、2020年の開設に向け準備が進められており、アイヌ政策推進会議をはじめ、政策推進作業部会や円卓会議の場で働きかけを行った。

「先住民族の権利に関する国際連合宣言（以下、国連宣言）」に照らし、「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会（以下、有識者懇談会）」報告書を基に「アイヌ文化振興法」制定時に残された課題を始めアイヌ民族の積年の願いである立法措置について、昨年10月北海道知事と共に内閣官房長官に要望書を提出した。

また、11月23日には、現アイヌ政策推進会議座長代理をつとめている伊東農林水産副大臣に、さらに、本年3月28日にも鈴木宗男新党大地代表の案内により、菅義偉内閣官房長官に改めて法律の制定をお願いした。その日の記者会見で菅長官自ら法的措置への検討に着手したいとの前向きな意向が表明された。

<2つの項目>

- 1 組織・活動強化の推進
- 2 事業の推進

1 組織・活動強化の推進

1 要請活動等の展開

アイヌ文化振興法の制定趣旨に基づき、アイヌ文化財団の各種事業展開と密接な連携・協力関係を築きながら、助成事業の実施に取り組んだ。

先住民族としての政策を確立するための活動や訴えについては、超党派議員連盟『アイヌ政策を推進する議員の会（代表世話人今津寛衆議院議員）』（以下、国会議員連盟）をはじめとした国会議員や関係行政機関に対して働きかけた。

「国連宣言」や「人種差別撤廃条約」の内容についての国内理解を促進するとともに、先住民族に関連する情報を入手し、我が国における先住民族の認知がより一層定着する活動を続けた。

また、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、各種学会、（公財）人権教育啓発推進センター、反差別国際運動との情報交換に努めた。

(1) 「アイヌ文化振興法」の施策活用

アイヌ文化の伝承・保存活動への取組みを推進するため、各地区協会はもとより、各古式舞踊保存会などで会員一人ひとりがこの施策を有効に活用できるよう、事業の周知と実施方法についての助言、助力を行った。

(2) 政府並びに各政党に対する働きかけ

新党大地鈴木宗男代表の案内により、理事長、副理事長が菅内閣官房長官を訪問し「国が主体となった総合的なアイヌ政策を全国を対象に推進していく根拠となる法律の制定」について要請書を手渡した。当日、午前の記者会見で、「アイヌ民族が抱えている生活向上対策や貧困問題からくる幼児期の教育問題も含めて、幅広くアイヌ政策に取り組む必要があり、法的措置の必要性についても総合的に検討したい」と述べ、新たな法整備も含めて総合的に検討する考えを示しました。(NHK NEWS WEB 3/29)

①中央陳情等

- ・菅 義偉 内閣官房長官 平成27年10月1日（首相官邸） 高橋はるみ知事と連名
平成28年3月28日（衆議院第2議員会館）
- ・伊東良孝 農林水産副大臣 平成27年11月23日（中標津町）
- ・石井啓一 国土交通大臣 平成28年3月27日（函館市）

②政党等

- ・岡田克也 民主党幹事長 平成27年10月4日（白老町）
- ・鈴木宗男 新党大地代表 平成28年3月16日（札幌市）

③関係省庁への要請

- ・松永 明 内閣審議官 平成27年11月5日（白老町）
平成28年1月12日（東京）
" 1月15日（東京）
" 1月29日（東京）
- ・伯井美德 文部科学省大臣官房審議官 平成28年3月28日（文部科学省）
※初等中等教育局長宛に学習指導要領改訂に向けた要望書を提出

④北海道への要請

- ・自民党道連アイヌ政策推進調査会会長
神戸典臣（道議会議員）平成27年11月26日（白老町）

(3) 象徴空間整備に関する施策の推進の働きかけ

2020年に開設と決まった象徴空間の整備、管理運営については、「有識者懇談会報告書」で提言されているとおり、今後のアイヌ政策は、先住民族であるアイヌの文化の復興に配慮すべき強い責任が国にあるという認識に基づき、国が中心となり担うべきであり、このことを強く国に働きかけた。

一方、象徴空間の一体的な運営には、アイヌの主体的参画を確保することが最も重要な観点であるとし、アイヌ政策推進会議をはじめ、運営協議会準備会などで働きかけた。

また、アイヌ文化は地域差があり、それぞれの文化が尊重されるよう、象徴空間整備・イオル事業などが密接に連携し、他地域とのネットワークが構築されるよう働きかけた。

アイヌ人骨の集約にあたっては、遺骨承継者に返還できる遺骨を除き、速やかに当該施設

に集約し、一刻も早く尊厳ある慰霊体制を確立することを求めた。

慰霊施設については、内閣官房（北海道分室）との協議の場（円卓会議）において慰霊に要する周辺整備について協議した。

①アイヌ政策推進会等への出席

◇アイヌ政策推進会議（第7回）

日時：平成27年10月1日（木）

場所：総理大臣官邸

議事：「政策推進作業部会」における検討状況の報告について
アイヌ政策の推進状況について
意見交換

◇政策推進作業部会

第21回 平成27年4月24日

- ・アイヌ遺骨について
- ・「民族共生の象徴となる空間」について
- ・「北海道外アイヌの生活実態調査」を踏まえた全国的見地からの施策の進捗状況について
- ・国民理解を促進するための活動について

第22回 平成27年6月26日

- ・政策推進作業部会報告（案）について

第23回 平成28年2月25日

- ・「民族共生の象徴となる空間」について

第24回 平成28年3月24日

- ・「民族共生の象徴となる空間」について
- ・道外施策の実施状況及び今後の展開について

（4）農林漁業対策の推進

農林漁業対策については、地域の営業実態に応じた生産基盤や近代化施設の整備を進めるため、引き続きアイヌ農林漁業対策事業の積極的な活用を図るとともに、団体会員への制度理解に努めた。

また、農林漁業対策事業の需要が近年予算を上回ることから、11月23日、伊東農林水産副大臣に対し、平成29年度以降の予算措置について要請活動を行った。

（5）住宅対策の推進

住宅の改善を促進するため、継続的な予算措置を求めた。

（6）先住権、人権に係わる機関・組織等に対する働きかけ

① 法務省の啓発事業「アイヌの人々の人権擁護の観点からの啓発」への協力をするとともに、イランカラブテキャンペーンなどの啓発事業や各種人権啓発資料の活用などにより、人権思想の普及・啓発に努めた。

② アイヌ民族の先住域である千島、樺太、北海道などの歴史的な実証資料や図書資料の収集につとめたが、国内外の活動展開には至らなかった。

アイヌ協会活動に関する理解、アイヌ史の正当な位置づけを求めるため、歴史学研究会、日本考古学協会、日本文化人類学会、日本人類学会などの各種学会や北海道大学「アイヌ

・先住民研究センター」へ働きかけ、「アイヌ学」や「アイヌ史」の構築に向けて、協力、連携を進めた。なお、日本考古学協会及び日本人類学会両学会代表役員とともに円卓会議を設け、これまでこれからの研究のあり方について協議し、中間報告「これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブル（中間まとめ）」が開示された。

(7) 伝統的生活空間再生の働きかけ

イオル先行実施地域においては、第3期目の計画時期を迎え、白老・平取地域及び札幌地域、新ひだか地域の充実と今年度からスタートした十勝及び残る2地域（釧路・旭川）の支援を継続して進めた。

また、イオル推進委員会を開催し、情報の共有と今後の空間整備のあり方について、協議した。

日 時：平成28年3月15日（火）

場 所：かでる2・7

参加地区：白老、平取、札幌、新ひだか、帯広、釧路（阿寒）

(8) 自主的啓発活動の推進

平時、内外からの照会に応じて啓発活動の推進に努めた。

あわせて広報紙、冊子、チラシ、道の啓発誌、DVDなどをおして、平時継続的な周知を図った。

(9) ホームページの充実

当法人のホームページをリニューアルし、アイヌ協会の活動方針や各種資料、最新の情報提供に努めた。

また、新規会員募集についての情報提供を行った。

(URL : <http://www.ainu-assn.or.jp>)

(10) 「アイヌ文化交流センター」の運営への協力

全国に向けたアイヌ文化の発信拠点として、東京都に設置されている「アイヌ文化交流センター」との連携を図り、事業運営等に協力した。

(11) 道外在住アイヌに対する施策実現への働きかけ

国が主体となった総合的なアイヌ政策を本道に加え全国を対象に推進していく根拠となる法律が制定されるよう国に要請していることから、関東域の関係団体・個人と連絡を密にして情報共有し、今後の取り組み方について意見交換を行った。

また、東京オリンピック・パラリンピックにおけるアイヌ文化発信プログラムの企画検討に関東域の関係団体へ参加を呼びかけ、連携した協議を行った。

(12) 北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの事業連携

同センター実施事業への協力を行うとともに、当協会事業に対するセンター教員等の支援協力を得た。

(13) 北海道博物館（アイヌ民族文化研究センター）とも連携を密にし、事業の推進に協力した。

(14) 教科書等のアイヌ民族に関する調査研究

昨年3月、平成28年度から使用される歴史教科書の検定で一部の出版社の「旧土人保護法」の解説に検定意見が出され修正された。

この修正部分の改訂前、改訂後の記述はいずれも、明治維新以降に政府主導で強化された北海道開拓（植民政策）とアイヌの同化政策についての言及がなされず、歴史的経過を正しく理解するには不十分な説明なことから、当該教科書出版会社にその旨を文書で伝え記述内容を確認した。

また、各市町村教育委員会で実施される教科書の選定作業を前に、採択に際しては、アイヌ民族の歴史や文化、現在の活動や人権問題について公平公正かつ記述が充実している教科書が選定されるよう要請するとともに、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が発行する副読本「アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために」（小学生用／中学生用）の活用について協力をお願いした。

さらに、文部科学省大臣官房審議官に平成28年度に予定される学習指導要領改訂の中に、民族固有の系統的な歴史的事実を反映した記述のあり方が盛り込まれるよう要望書を提出し、歴史教科書等の執筆にかかる大本の指導基準の改訂について働きかけた。

(15) 教育相談員の配置等

既存の北海道教育庁、市教育委員会に配置されている教育相談員と協力・連携し、地元の意向に即した支援を行った。

(16) 図書・刊行物等の過誤対応

図書、各種出版物や観光資料などの記述に過誤があった場合は、速やかに改善を求めていくとともに、観光バスガイドテキストの有効活用、(公社)北海道観光振興機構に設置された「アイヌ文化部会」など関係機関と連携、協力しながら正確な知識の普及に努めた。

(17) 「記念事業等のあり方」対応

市町村の「開基記念事業」については、事業名称や実施内容に不適切な事例報告を受けなかったが、継続して情報収集につとめた。

(18) 「FSC森林認証制度における管理木材リスク評価」について

「製紙会社が調達する北海道産木材がアイヌの伝統文化継承を阻害するような森林伐採に由来しないか、或いは森林域においてアイヌ文化の振興・発展にどのような支援が必要か」といった観点で王子製紙と日本製紙が実施するヒアリングに道協会・関係地区協会が協力した。

また、FSCジャパンの国内森林管理規格策定に関する先住民族ワーキンググループの検討作業に参画し、第5版規格改定作業に意見を述べ、概ね主張が反映され引き続きの作業が進められることとなった。(平成29年度夏頃終了予定)

実施地域：平取町／白老町／釧路市／清水町／三笠市／幕別町／名寄市／旭川市／
佐呂間町／広尾町／喜茂別町

実施内容：FSC認証制度の説明及び意見交換

※FSC管理木材リスク評価説明会実施地

幕別アイヌ協会 平成27年7月12日 13:00～14:30

芽室アイヌ協会 平成27年7月12日 15:30～16:40

2 組織の強化

(1) 団体会員等との連携強化

公益法人法の移行2年目を迎え、アイヌウタリが一致団結し運動を展開するため、各地区協会（団体）や会員（本会員）への情報提供や共有を図り、各地区協会の総会、役員会等に足を運び、事務・会計等の相談などに応じてきた。

また、「会員研修事業」や「アイヌ協会役員研修・連携会議」を有効に活用し、会員の意識の向上と組織連携や強化を図った。

<参加地区、出席役員一覧表>

※各地区協会からの通知をもとに整理

期 日	行 事 名	出席役・職員
平成27年 2月13日(金)	長万部アイヌ協会総会	加藤理事長、竹内常務
2月21日(土)	八雲アイヌ協会総会	竹内常務理事
2月25日(水)	厚岸アイヌ協会総会	豊岡理事、竹内常務理事
2月25日(水)	釧路町アイヌ協会総会	豊岡理事、竹内常務理事
3月29日(日)	帯広アイヌ協会総会	竹内常務理事、川上主任
3月30日(月)	上川アイヌ協会総会	竹内常務理事
4月 3日(金)	標津アイヌ協会総会	
4月 5日(日)	新冠アイヌ協会総会	貝澤局長
4月10日(金)	弟子屈アイヌ協会総会	
4月12日(日)	旭川アイヌ協会総会	
4月12日(日)	千歳アイヌ協会総会	
4月13日(月)	阿寒アイヌ協会総会	
4月18日(土)	苫小牧アイヌ協会総会	
4月18日(土)	伊達アイヌ協会総会	貝澤局長
4月19日(日)	白糠アイヌ協会総会	
4月19日(日)	えりもアイヌ協会総会	
4月19日(日)	三石アイヌ協会総会	
4月19日(日)	上士幌アイヌ協会総会	
4月19日(日)	平取アイヌ協会総会	
4月19日(日)	様似アイヌ協会総会	
4月19日(日)	浦河アイヌ協会総会	

期 日	行 事 名	出席役・職員
4月19日(日)	むかわアイヌ協会総会	
4月19日(日)	洞爺湖アイヌ協会総会	
4月22日(水)	釧路アイヌ協会総会	豊岡理事
4月23日(木)	厚真アイヌ協会総会	川上主任
4月26日(日)	新ひだかアイヌ協会総会	加藤理事長
4月26日(日)	白老アイヌ協会総会	
5月 1日(金)	室蘭アイヌ協会総会	
5月 9日(土)	新ひだか シベチャリ武四郎まつり	加藤理事長
5月30日(土)	様似 イチャルパ	
6月 7日(日)	新ひだか 第27回イチャルパ	
6月21日(日)	標津 第7回標津イチャルパ	
6月28日(日)	幕別アイヌ協会総会	
6月28日(日)	伊達アイヌ協会臨時総会	阿部副理事長、貝澤常務
6月28日(日)	釧路 音別物故者イチャルパ	
7月 7日(火)	長万部 先祖供養祭	加藤理事長
7月25日(土)	豊浦 カムイノミ・イチャルパ	
7月26日(日)	苫小牧 丸木舟川下り	
8月 2日(日)	白糠 第37回ふるさと祭	
8月 5日(水)	恵庭アイヌ協会総会	川上主任
8月10日(月)	白老 アイヌ碑慰霊祭	
8月13日(木)	八雲 ウタリ先駆者鎮魂之碑へのお参り	加藤理事長
8月29日(土)	阿寒 第26回阿寒町納骨堂イチャルパ	
8月30日(日)	むかわ 第32回碑前祭	
9月 6日(日)	上士幌 第23回マレック漁	
9月 6日(日)	千歳 アシリチェブノミ	
9月 6日(日)	白糠 第20回フンペ祭	
9月 6日(日)	浦河 平成27年度イチャルパ	
9月18日(金)	新冠 第33回イチャルパ	

期 日	行 事 名	出席役・職員
9月19日(土)	白老 第27回しらおいチェブ祭	
9月19日(土)、20日(日)	根室 第42回ノッカマップ・イチャルパ	
9月20日(日)	千歳 カムイチェブノミ	
9月23日(水)	第69回シャクシャイン法要祭	加藤理事長、貝澤常務
10月 4日(日)	厚真 カイムノミ・イチャルパ	
10月 4日(日)	三石 第22回イチャルパ	
10月19日(月)	るべしベアイヌ協会設立総会	豊岡理事、貝澤常務、他
10月20日(火)	美幌アイヌ協会設立総会	豊岡理事、貝澤常務、他
10月25日(日)	浦河 パセオンカムイカムイノミ	
11月 1日(日)	白糠 第36回ししゃも祭	
11月 8日(日)	第35回浦河アイヌ協会敬老会	
12月27日(日)	幕別アイヌ協会臨時総会	貝澤常務
平成28年 1月10日(日)	千歳 アシリパノミ	
1月31日(日)	むかわ アシリパカムイノミ	
2月 7日(日)	むかわ 第22回チセコロカムイノミ	加藤理事長
2月17日(水)	長万部アイヌ協会総会	
2月20日(土)	八雲アイヌ協会総会	加藤理事長
2月21日(日)	シシリムカアイヌ文化祭	

(2) 立法措置による全国展開のアイヌ施策への具現化

「アイヌ文化振興法」制定時に残された課題を始め、アイヌ民族の積年の願いである立法措置について、昨年10月1日、北海道知事と共に菅内閣官房長官に要望書を提出した。

また、11月23日には、現アイヌ政策推進会議座長代理をつとめている伊東農林水産副大臣に、さらに本年3月28日に鈴木宗男新党大地代表の案内により、菅官房長官に改めて全国を対象に推進していく根拠となる法律の制定をお願いした。その日の記者会見で官房長官から法的措置への検討に着手したいとの前向きな意向が示された。

(3) 国際文化交流事業の推進

青少年の海外研修事業が平成24年度からアイヌ文化財団の直轄事業として創設されたことから、この事業への協力、会員子弟への参加奨励など、組織強化につながる人材育成事業の取組みを支援した。

(4) 会員研修事業の開催

協会理事会と各関係団体は常に情報を共有し密接な連絡調整を保つことが重要であることから、団体代表者等が一堂に集い、研修・意見交換を行った。

日 程：平成28年3月12日～13日

場 所：札幌ビジネスセンター／かでの2・7

参加者：各地区協会代表者 35名

内 容：講演 FSC国際森林認証制度への対応等について
研修 象徴空間・慰霊施設に係る今後の取組について
自由討議、意見交換

(5) 地区別懇談会の開催

「アイヌ文化振興法」の活用や協会活動などへの理解と参加促進、団体活動の活性化と団体組織の強化を図るため、各団体が抱えている課題や実情に応じた地区別懇談会を開催した。

地 区	日 程	場 所	内 容
日 高	平成28年1月31日	えりも町	アイヌ協会活動について 政策推進会議等の状況について 他

(6) 青年女性対策の推進

青年の立場、女性の立場から文化の伝承・保存や組織強化の活性化などについて研修を行った。また、全道から集まった会員との交流を通じて、他地域の現状や取組について情報共有が図られた。

「青年・女性の集い」の実施

- ・開催地：国立日高青少年自然の家
- ・時 期：平成28年3月5日～6日
- ・参加者：各地区協会本会員（家族）58人

(7) 各種相談員の合同研修会などの実施

会員の生活・経済の向上と団体活動の活性化を図るため、生活・職業・教育相談員、さらに経営改善普及指導員による合同研修会や特別研修会を開催した。

◆アイヌ関係各種相談員研修会

日 程：平成27年7月9日～10日

場 所：札幌市

参加者：生活相談員、職業相談員、教育相談員、経営改善普及指導員 41人

◆特別研修会

各種事業の実施と合わせて開催

開催地：国立日高青少年自然の家

日 程：平成28年3月5日～6日

参加者：各種相談員 10人

(8) 連帯意識の高揚

各種貸付金の返還について、各個人の責任において必ず履行されるよう償還義務の確認、連絡徹底に努めた。また、償還が滞っている地区協会と連携し償還督促に努めた。

(9) 生活館活動の充実

生活館活動については、各地区独自の活動実施にとどまった。

(10) 市町村への働きかけ

市町村が行っているアイヌ関連施策の充実、生活格差の是正等、引き続きアイヌ施策や推進体制が充実するよう働きかけた。

(11) 財政基盤の強化

平成27年度、新規事業（アイヌ文化発信プログラム、組織強化活動等）の実施により、研修会議を持つことができたが、会費収入は減少傾向（本会員の減）にあり自主財源の節約に努めた。

3 会務の運営

(1) 理事会、アイヌ協会役員研修・連携会議の開催

総会で議決された事項及び会務の執行を適正かつ効果的に推進するため、理事会を年4回程開催した。

<理事会>

回	数	開 催 日	場 所
第 1 回		平成27年 4月27日(月)	札 幌 市
第 2 回		平成27年 11月10日(火)	札 幌 市
第 3 回		平成28年 1月28日(木)	札 幌 市
第 4 回		平成28年 3月12日(土)	札 幌 市

<役員研修・連携会議>

回	数	開 催 日	場 所
第 1 回		平成27年 8月26日(水)	札 幌 市
第 2 回		平成27年 11月 9日(火) 10日(水)	札 幌 市
第 3 回		平成28年 1月27日(水) 28日(木)	札 幌 市

(2) 監事の監査機能の充実など

公益法人移行後の平成27年度の執行部の業務や一般会計、特別会計の適正執行に努め、監事監査とともに公認会計士による監査を実施した。

- ・ 監事会計監査 : 平成27年12月22日、平成28年4月19日
- ・ 公認会計士監査 : 平成28年 4月19日

2 事業の推進

(1) 社会的地位の向上に関する啓発と施策の推進

先住民族アイヌに関する知識の普及と理解促進のため、一般市民及びアイヌ当事者に対し、国際人権規範や人種、民族等に係る情報収集や対面交流等、適切かつ効果的手法により各種広報・啓発を行った。

① 広報紙「先駆者の集い」の発行

年3回（B5版p.8）各4,500部発行。協会団体会員本会員、賛助会員や行政機関、研究者等に無料配付した。

② ホームページによる情報発信

当協会ホームページを改新し、先住民族アイヌの情報（組織概要、アイヌ史年表、国連活動、民芸品事業者、観光ガイド等）を発信した。

③ 印刷物の発行

アイヌ協会の活動を紹介すると共にアイヌ政策に関するしおり等を作成し、新規会員の入会を募集した。

- ・アイヌ民族の概説（B5版26頁）
- ・アイヌの人々に対する施策のしおり（A4版48頁）
- ・修学、生活等福祉資金貸付のご案内（A4版10頁）
- ・賛助会員募集のご案内（3つ折り）
- ・アイヌ協会へのご支援について（リーフレット）

④ 「2015年 国際先住民の日記念事業」の開催

「国際先住民の日」制定趣旨とアイヌ民族の歴史・文化・現状についての啓発事業を実施した。

日 時：平成27年8月8日（土）13:30～17:00

場 所：かでの2・7ビル 4階大会議室

参加者：一般道民及びアイヌ協会員 89名

テーマ：「アイヌ民族の歴史軸を考えるー考古と口承と史料から見えることー」

講演：「小人伝説の成立と中世のアイヌ社会ー口頭伝承からみたアイヌの歴史ー」

旭川市博物館 館長 瀬川拓郎 氏

講演：「日本列島の文化要素と国立アイヌ文化博物館（仮称）の役割」

北海道大学アイヌ・先住民研究センター 客員教授 佐々木利和 氏

講演：「考古学と先住民族：誰の歴史を誰に対して語るのか」

北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授 加藤博文 氏

資料解説・自由討議、質疑応答

「宇田川洋のアイヌ考古学研究」資料編集・監修 宇田川 洋 氏

「アイヌ民族の歴史と教育について」資料解説、進行 副理事長 阿部一司

(2) 各種貸付金の貸付

福祉（緊急使途支援）、環境整備（浴室、墓碑整備）、入学一時（大学、私立高校、専修学校）を、道内に居住するアイヌの生活向上や生活環境整備の支援のために、使途に応じて各種貸付を行った。

①福祉資金（緊急に生活資金が必要となった者への貸付／無利子・年度内償還）

・貸付限度額10万円以内 34件（3,400,000円）の活用があった。

②環境整備資金（浴室・墓碑整備に要する費用の貸付／無利子・据置き期間は貸付日の属する年度末迄。その期間経過後2年以内の償還）

○浴室整備資金

・貸付限度額20万円以内 0件

○墓碑整備資金

・貸付限度額30万円以内 0件

③入学一時資金（大学・私立高校・専修学校の入学時に要する費用の貸付／無利子・据置き期間は各資金種別の修業年限以内経過後3年以内）

○大学入学一時資金

・貸付限度額30万円以内 3件（710,000円）の貸付を行った。

○私立高校一時資金

・貸付限度額20万円以内 1件（150,000円）の貸付を行った。

○専修学校一時資金

・貸付限度額30万円以内 2件（450,000円）の貸付を行った。

(3) 職業の確立及び教育の振興に関する施策の推進

道内居住アイヌの就労、就職に係る技能向上や各種免許取得等の所要経費の助成並びに就職相談や求人開拓等に携わるアイヌ雇用推進員設置による指導、アイヌ民工芸品生産者を対象に販路拡大や就業支援、技能向上などの各種支援策を推進した。

①就職奨励事業

○就労や就職に係る支度費用や就職条件のための「就職支度資金」、「自動車等免許取得資金」などの所要資金を助成した。

・就職支度資金23,760円 0件

・技術習得資金50,000円以内 12件（600,000円）の給付を行った。

②アイヌ雇用促進事業

○アイヌの雇用促進に対処するため雇用推進員を設置、就労・就職相談や求人開拓等によりアイヌの雇用と生活安定の促進を図った。

・全道13カ所のハローワークに雇用推進員を配置し、当該業務に従事した。

延べ337日間の活動で578件の相談を受理、134件の就職・求人に結びつけた。

平成27年度活動実績は次のとおり。

項 目		月 別												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1. 活動日数		29	29	30	30	29	29	30	27	27	27	25	25	337
2. 相談 件数	1) 求職者相談件数	61	54	52	44	48	41	55	41	46	44	39	48	573
	有効求職者	48	48	43	34	40	30	40	37	39	33	32	41	465
	新規学卒者	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	7
	その他	12	5	9	9	8	11	15	4	7	11	5	5	101
	2) 事業所相談件数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	5
	一般求人	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3
	新規学卒者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
3. 安定所に取 次いだ件数	求職取次	7	8	5	7	9	8	7	9	7	6	5	6	84
	求人取次	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3
4. 職場適応指導件数		4	2	3	5	1	2	7	6	3	3	2	5	43
5. 安定所に取次いだ求人 情報のうち求人受理件数 (求人数)		0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
		0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	6
6. 就職に至った件数		14	10	11	15	11	13	12	10	6	6	11	15	134

③アイヌ中小企業振興対策事業

○アイヌ民芸品生産者の販路拡大や後継者育成、さらには新製品開発や需要喚起、民芸等の製作技術や文化の普及・理解促進のために行う作品展示、製作実演・体験などによる「民芸品展示会」を開催した。

開催地	場 所	期 間	体験講師／実演者
千歳市	新千歳空港 ターミナルビル 2階	平成27年 9月26日(土) ～ 28日(月)	体験講師 ①長縄由加利(エルズ) ②貝澤竹子(アートサッポロ) 実演展示 ①吉田信男(吉田民芸) ②藤原スエ子(カイザー) 古式舞踊の公演 札幌ウポポ保存会
	新千歳空港 ターミナルビル 2階	平成27年 11月6日(金) ～ 8日(日)	体験講師 ①藤原スエ子(カイザー) ②長縄由加利(エルズ) 実演展示 ①吉田信男(吉田民芸) ②貝澤竹子(アートサッポロ) 古式舞踊の公演 平取アイヌ文化保存会
	新千歳空港 ターミナルビル 2階	平成28年 2月12日(金) ～ 14日(日)	体験講師 ①貝澤竹子(アートサッポロ) ②長縄由加利(エルズ) 実演展示 ①山田祐治(やまだ民芸社) ②荒木 繁(あらかき木彫製作所) 古式舞踊の公演 鶴川アイヌ文化伝承保存会
東京都	ギャラリー八重 洲・東京	平成28年 1月20日(水) ～ 24(日)	体験講師 ①石井美香／間宮喜代子 ※前半後半交代 実演展示 ①石井美香／間宮喜代子 ※前半後半交代 ②吉田信男

○博物館の民族資料の熟覧・講習受講等による知識・技能等の向上、先進地視察や国立民族学博物館の外来研究、技術指導受講などによる研鑽、調査研究及び経営研修などを進める「工芸者技術研修」を行った。

<道外研修>

国立民族学博物館に外来研究員としての受け入れを依頼し、アイヌ工芸者の技術向上とアイディアの開発、さらにはアイヌ工芸品の振興発展を目的に研修を行った。

また、天理大学附属天理参考館の収蔵資料の熟覧などを実施し、デザインの開発、製作技術について研修を深めた。

- ・研修期間：平成28年2月16日～2月29日（14日間）
先進地視察 2月29日～3月2日（鳥取県／島根県）
- ・参加者：廣川昌嘉（帯広）／高田絹代（帯広）
- ・報告会：研修終了後、研修報告会を実施した。

<道内研修>

アイヌ工芸者の技術向上と経営手法を習得するため、熟練工芸作家による技術指導と経営や販売促進に関する研修を実施した。

- ・研修期間：平成27年12月～平成28年3月
- ・講師：①技術指導 優秀工芸師 宮田初枝
優秀工芸師 浦川太八
②経営セミナー 中小企業診断士 後藤直樹
- ・参加者：小美浪フミ（白老）／佐藤啓子（札幌）／木村凉子（浦河）
八重清敏（鶴居）
- ・報告会：研修終了後、研修報告会を実施した。

（4）民族文化の保存・伝承及び発展に関する施策の推進

①アイヌ伝統工芸展開催事業

期 間	平成28年2月4日（木）～8日（月）			
場 所	かでの2・7 1階展示ホール			
参加地区数	10地区協会（26人）			
出品数及び 審査委員	伝統工芸品部門	28点	一般工芸品部門	48点 計76点
	北海道文学館学芸員		浅川 泰	
	北海道立総合研究機構 工業試験場製品技術部		日高 青志	
（敬称略）	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授		山崎 幸治	
	北海道テキスタイル協会会長		戸坂 恵美子	
	北海道アイヌ協会優秀工芸師		西田 香代子	
	北海道アイヌ協会優秀工芸師		貝澤 徹	

受賞者一覧

	伝 統 工 芸 品 部 門			一 般 工 芸 品 部 門		
	作品名	地区名	氏 名	作品名	地区名	氏 名
最優秀賞 (※1)	樺太着物	札 幌	檜木貴美子	ショルダーバック	白 老	河岸麗子
優秀賞 (※2)				フクロウ	白 老	吉田信男
優秀賞 (※3)	アザラシ衣	札 幌	小川早苗			
優秀賞 (※4)	ルウンペ (木綿衣)	白 老	河岸洋美	ランチョンマツト	札 幌	荒木ハル子
奨励賞	イタ (丸盆)	釧 路	伊藤夕美	カムイチェブ	白 老	山田祐治
同	マエタレ (前掛け)	平 取	関根真紀	タペストリー	札 幌	檜木貴美子
同	マエタレ (前掛け)	帯 広	廣川和子	ペンダント	釧 路	伊藤夕美
同	カパラミブ (木綿衣)	登 別	芳賀美津枝	タペストリー	札 幌	長縄由加利
同	マタンプシ (鉢巻き)	札 幌	早坂ユカ			

※1 最優秀賞 (北海道知事)

※2 優秀賞 (北海道議会議長)

※3 優秀賞 (北海道教育委員会教育長)

※4 優秀賞 (かでの賞)

②アイヌ工芸 in みんなく

期 間 平成27年11月12日(木)～15日(日)
場 所 国立民族学博物館1階ホール
参 加 者 優秀工芸師 荒木 繁(札幌)／山本みい子(幕別)
事務局

③アイヌ民俗文化財伝承・活用事業

○アイヌ民俗文化財理解のための用語や伝統技術の習得、民俗芸能の伝承等の講座を開設し一般市民及びアイヌ同胞への伝承普及等を図った。

- ・アイヌ民俗技術伝承講座 7会場(札幌/苫小牧/白老/むかわ/浦河/帯広/釧路)
- ・アイヌ民俗芸能伝承講座 7会場(苫小牧/白老/むかわ/浦河/様似/帯広/釧路)
- ・アイヌ民俗文化財総合伝承講座 1回(札幌)
- ・アイヌ民俗技術・芸能伝承講座発表・展示 1回(帯広)

④アイヌ民族文化祭事業

国際先住民の10年の周知・啓発と民族文化の伝承と発展を図るため、アイヌ民族文化祭2015を開催した。

◆開催日時：平成27年11月28日(土) 13:00～15:30

◆開催場所：かでの2・7 かでのホール

◆入場者数：280人

◆内 容：特別ゲスト公演

「担い手育成事業研修生らによるアイヌ文化ワークショップ」

「アイヌ文化伝承者 川上容子氏のユカラの披露」(ビデオ上映)

アイヌ文化講演

「アイヌ音楽と出会う」北海道博物館アイヌ民族文化研究センター
研究主査 甲地利恵氏

アイヌ文化公演

帯広カムイトウウポポ保存会

札幌ウポポ保存会

(5) 諸民族との交流及び情報交換

①国内文化交流事業

○北海道大学及び札幌医科大学イチャルパ(供養祭)など、古式に則る先祖供養の実施により伝統文化の体験交流と技能習得による保存活動を実施し、併せて人類学等の研究者、大学関係者との遺骨返還方法等の協議や研究成果の社会還元、相互理解等を図った。

「北大イチャルパ文化交流の集い」－北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパー

- ・日 程：平成27年8月7日(金)
- ・場 所：北海道大学医学部敷地内「アイヌ納骨堂」
- ・参加者：130人

「札幌大イチャルパ文化体験交流の集い」－札幌医科大学におけるイチャルパー

- ・日 程：平成27年10月7日（水）
- ・場 所：札幌医科大学構内
- ・参加者：70人

○文化理解の促進と伝承活動の活性化を図るため、アイヌ古式舞踊の保存団体を招聘した「芸能交流会」を開催し、各地に伝わる舞踊や歌、楽器演奏等を一般市民やアイヌ同胞に紹介した。

「芸能交流会」

- ・日 程：平成27年9月23日（火・祝）
- ・会 場：真歌公園広場（新ひだか町静内真歌）
- ・参加者：250人（14団体）

○後継者の育成とアイヌ文化等の理解促進を図るため、「優秀工芸師」による「優秀工芸師秀作展示交流会」を開催し秀逸な作品の展示、技術指導を行った。

- ・日 程：平成28年2月4日（木）～7日（日）
- ・会 場：かでの2・7・1階展示ホール
- ・実演者：優秀工芸師 9人

（6）道立アイヌ総合センターの管理

北海道条例に基づき指定管理者として道立アイヌ総合センターの指定管理業務を行った。

- ・保守管理業務→設備、備品、資料の保守管理
- ・施設利用に関する業務→利用受付、案内
- ・情報提供に関する業務→資料収集・保管、資料展示室の案内・開設、情報提供
- ・学習事業に関する業務→講習会等の開催、資料提供
- ・管理事業に関する業務→パンフレットの配布、アイヌ文化伝承保存のための普及啓発
- ・利用承認に関する業務→申込書の收受、承認書の交付
- ・災害、事故時対応 →利用者の安全確保、関係機関への連絡通報、応急処置等
- ・各種報告等 →事業報告等
- ・その他 →関係団体との調整等

○一般市民に対しアイヌ民族への理解を深めるため、常設展示や関係図書、史・資料の利活用の促進を図った。施設空間の活用などによりアイヌ文化の体験学習や講習会を実施、伝承と保存活動を推進した。

平成27年度アイヌ総合センター学習事業実績

講習名	日程	講師名	延べ人数
アイヌ刺しゅう入門講習会Ⅰ	7月14日、21日 17日、24日	宮田初枝	44人 (11人×4回)
アイヌ刺しゅう入門講習会Ⅱ (バッグ)	2月22日、25日 29日、3月3日	宮田初枝	32人 (8人×4回)
アイヌ刺しゅう中級講習会Ⅰ (小さなモウル)	8月24日、27日 31日、9月3日	宮田初枝	48人 (12人×4回)
アイヌ刺しゅう中級講習会Ⅱ (タペストリー)	10月1日、8日 15日、22日	宮田初枝	40人 (10人×4回)
アイヌ刺しゅう中級講習会Ⅲ (モウル 大・小選択制)	11月12日、19日 26日、12月3日	宮田初枝	64人 (16人×4回)
合計			228人

○自主事業等の実施

(自主企画事業)

- ・アイヌ民芸品（北海道アイヌ伝統工芸展受賞作品）をアイヌ総合センター内に展示し、優秀作品の鑑賞機会の提供と伝承技術の奨励を促進した。

(広報活動等)

- ・アイヌ協会ホームページ、講習会周知、かでの広報への施設案内・行事の周知を行った。

(7) 人種、民族に関する調査研究及び提言

先住民族アイヌに関する文化的伝統や慣習、歴史、言語、文化遺産、文化的表現を保持、管理、保護し、発展させるため、必要な情報収集に努めた。

①アイヌ民俗文化財調査事業 道教委委託事業

○故金成マツ筆録、ユカラ翻訳整理及び伝統的な生産業、民俗技術、口承文芸などの調査を行った。

- ・萱野茂二風谷アイヌ資料館保管の金成マツノート中、3話の翻訳整理と原稿化。
表記法等：(筆録原文音素表記・アイヌ語カナ表記・邦逐語訳/対訳) 3編。
- ・民俗技術の調査

(8) アイヌ文化体験プログラム事業

2020年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」でアイヌ文化を世界に向けて発信することを目的に道内各保存会及び関東4団体、道内外の文化伝承活動を行っている任意団体から構成する「アイヌ文化発信検討会議」を設置し、4回の検討会議を開催した。

今後、4年間をかけて、パフォーマンス（演示）のあり方、人材育成への取組、演示の完成度の向上や幅広い文化発信の展開について継続的に協議検討することとした。

- 第1回 開催日：平成27年 8月27日
内 容：アイヌ文化体験プログラム事業の説明、意見交換
- 第2回 開催日：平成27年12月17日
内 容：①過去のオリンピック映像の視聴
②講義「アイヌの音楽の中の多様性について」
③意見交換
- 第3回 開催日：平成28年 2月19日
内 容：①過去のオリンピック映像の視聴
②検討項目毎の整理、具体化に向けた議論、検討
- 第4回 開催日：平成28年 3月30日
内 容：①過去のオリンピック映像の視聴
②検討項目毎の整理、具体化に向けた議論、検討
③次年度以降の行程表（年度計画）の取りまとめ
④今後の対応について

(9) 国民意識調査事業

平成25年10月に内閣府大臣官房政府広報室において、「アイヌ政策に関する世論調査」を実施し、「アイヌの人々に対して、現在は差別や偏見がなく平等であると思いますか」という設問に対し、「平等ではないと思う」(9.2%)、「どちらかというとも平等ではないと思う」(24.3%)をあわせると、約3分の1にのぼっていたことから、その要因を分析し、対応策を検討するための基礎資料を得るため、「国民のアイヌに対する理解度についての意識調査」を実施することとなった。

平成27年度、内閣官房アイヌ総合政策室から、上記の意識調査業務を受託し、各地区協会や道外の皆様のご理解とご協力を得ながらアンケート調査を実施した。

調査結果：別紙、結果概要のとおり

「国民のアイヌに対する理解度に関する調査」結果概要

(調査の概要)

	国民全体を対象にした世論調査	アイヌの人々を対象にした意識調査
実施主体	内閣府政府広報室	内閣官房アイヌ総合政策室
調査対象	全国20歳以上の日本国籍を有する者 3,000人 有効回収数1,727人 (回収率 57.6%)	全国20歳以上のアイヌの人々 1,000人 有効回収数 705人 (回収率 70.5%)
調査時期	平成28年1月14日～1月24日 (調査員による個別面接聴取)	平成27年10月26日～平成27年11月20日 (調査票郵送方式)
調査目的	アイヌの人々に対する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。	アイヌの人々の立場からアイヌに対する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
調査実績	「アイヌ政策に関する世論調査」 (平成25年10月調査)	アイヌの人々を対象とした全国調査は今回が初

(調査結果の概要)

1 アイヌの人々やアイヌ文化と接した機会の有無		
	「ある」25%、「ない」74%	
2 アイヌの人々に対する差別や偏見について		
○アイヌの人々に対する差別や偏見の有無	・「あると思う」18% ・「ないと思う」51% ・「わからない」31%	・「あると思う」72% ・「ないと思う」19% ・「わからない」9%
○差別や偏見があると思う理由(複数回答) ※差別や偏見があると思う人に	・「報道などを通じてアイヌの人々が差別を受けているという話を聞いたことがある」47% ・「漠然と差別や偏見があるイメージがある」40% ・「経済格差や教育格差があるイメージがある」25%	・「漠然と差別や偏見があるイメージがある」55% ・「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」51% ・「差別を受けているという具体的な話を聞いたことがある」51%
○差別や偏見の原因・背景(複数回答) ※差別や偏見があると思う人に	・「アイヌの歴史に関する理解の不十分さ」65% ・「アイヌ文化に対する理解の不十分さ」64% ・「行政や学校教育におけるアイヌの人々の理解を深める取組が不十分」42%	・「アイヌの歴史に関する理解の不十分さ」78% ・「行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分」69% ・「アイヌ文化に対する理解の不十分さ」66%
○差別や偏見を無くするために必要なこと(複数回答) ※差別や偏見があると思う人に	・「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」73% ・「アイヌの人々への理解を深めるための啓発・広報活動」53% ・「アイヌの人々への教育の充実・支援」28%	・「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」81% ・「アイヌへの教育の充実・支援」63% ・「アイヌへの理解を深めるための啓発・広報活動」53%
○差別や偏見がないと思う理由(複数回答) ※差別や偏見がないと思う人に	・「差別を受けている場面を見たり、差別を受けている話を聞いたことがないから」70% ・「今のアイヌの人々は、アイヌ以外の人々と同様に現代的な生活をしているから」30% ・「アイヌの人々もアイヌ以外の人々と同様に人権を保障されているから」20%	・「差別を受けたことがないから」71% ・「今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから」69% ・「アイヌもアイヌ以外と同様に人権を保障されているから」44%
3 国民理解の促進について		
○国民理解の促進に向けて効果的な取組方法(複数回答)	・「テレビ番組や新聞を利用した情報提供」68% ・「再現されたアイヌの伝統的家屋・食事・衣服・楽器の体験」29% ・「インターネットによる広報活動」28%	・「講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催」54% ・「テレビ番組や新聞を利用した情報提供」54% ・「再現されたアイヌの伝統的家屋・食事・衣服・楽器の体験」45%

資料編

アイヌ施策関連事業

平成27年度アイヌ施策関連事業

<修学奨励、教育事業関係>

1 高等学校等進学奨励事業【道（振興局）～対象者】

区 分	高校・大学別	人 数	上 限 額
入学支度金	高 校（給付）	122	23,760円
	大 学（貸付）	23	37,800円
修学資金	高 校 （給付）	国公立	3,202 月）23,000円
		私 立	984 月）43,000円
	大 学 （貸付）	国公立	120 月）51,000円
		私 立	1,056 月）82,000円

2 専修学校等進学奨励費補助事業【道（振興局）～対象者】

区 分	人 数	上 限 額
入学支度金	21	23,760円
修学資金	768	（月）23,000円

3 高等学校通学費補助事業【道（振興局）～対象者】

補助対象高等学校の通学に要する経費

42人に1,325,770円が助成された。

4 教育相談員の配置

北海道費で1名（竹内 渉）、札幌市単費で1名（光野智子）

帯広市単費で1名（佐藤美穂）が配置され教育相談業務が行なわれた。

<地方改善事業関係>

（1）施設整備事業の実績

（単位：円）

No.	市町村	地 区	種 別	規模等	事業費 A	補助金額 B	うち国庫 負担相当額 (B×2/3) C	うち道費 負担相当額 (B-C) D
1	浦河町	西舎 生活館	生活館	大規模 修繕	14,688,000	11,016,000	7,344,000	3,672,000

(2) 生活館運営費・生活館活動推進事業の実績

(生活館運営費補助金一覧) N o 1

(単位：円)

市町村	館数	区分	総事業費	補助金額	うち国庫負担相当額	うち道費負担相当額
			A	B	(B×2/3) C	(B-C) D
千歳市	1	運営費	4,168,704	2,637,000	1,758,000	879,000
		活動	132,705	99,000	66,000	33,000
		小計	4,301,409	2,736,000	1,824,000	912,000
八雲町	1	運営費	3,259,481	2,150,000	1,433,000	717,000
		小計	3,259,481	2,150,000	1,433,000	717,000
室蘭市	1	運営費	3,712,047	2,340,000	1,560,000	780,000
		小計	3,712,047	2,340,000	1,560,000	780,000
苫小牧市	1	運営費	7,952,763	2,637,000	1,758,000	879,000
		活動	403,965	146,000	97,000	49,000
		小計	8,356,728	2,783,000	1,855,000	928,000
伊達市	1	運営費	3,009,329	2,068,000	1,378,000	690,000
		活動	34,492	25,000	16,000	9,000
		小計	3,043,821	2,093,000	1,394,000	699,000
豊浦町	1	運営費	2,680,369	756,000	504,000	252,000
		小計	2,680,369	756,000	504,000	252,000
白老町	8	運営費	11,204,130	7,613,000	5,075,000	2,538,000
		小計	11,204,130	7,613,000	5,075,000	2,538,000
洞爺湖町	1	運営費	252,749	189,000	126,000	63,000
		小計	252,749	189,000	126,000	63,000
むかわ町	11	運営費	11,275,914	8,137,000	5,424,000	2,713,000
		活動	122,102	91,000	60,000	31,000
		小計	11,398,016	8,228,000	5,484,000	2,744,000
日高町	19	運営費	21,496,246	14,378,000	9,585,000	4,793,000
		小計	21,496,246	14,378,000	9,585,000	4,793,000
平取町	12	運営費	18,465,628	10,962,000	7,308,000	3,654,000
		活動	189,551	93,000	62,000	31,000
		小計	18,655,179	11,055,000	7,370,000	3,685,000
新冠町	9	運営費	7,574,333	4,596,000	3,064,000	1,532,000
		小計	7,574,333	4,596,000	3,064,000	1,532,000
浦河町	13	運営費	11,434,519	8,459,000	5,639,000	2,820,000
		活動	268,718	121,000	80,000	41,000
		小計	11,703,237	8,580,000	5,719,000	2,861,000
様似町	9	運営費	15,082,292	8,691,000	5,794,000	2,897,000
		活動	167,308	125,000	83,000	42,000
		小計	15,249,600	8,816,000	5,877,000	44,897

次頁に続く

(生活館運営費補助金一覧) No.2

(単位:円)

市町村	館数	区分	総事業費	補助金額	うち国庫負担相当額	うち道費負担相当額
			A	B	(B×2/3) C	(B-C) D
えりも町	6	運営費	5,393,364	3,890,000	2,593,000	1,297,000
		小計	5,393,364	3,890,000	2,593,000	1,297,000
新ひだか町	29	運営費	15,893,864	11,054,000	7,369,000	3,685,000
		小計	15,893,864	11,054,000	7,369,000	3,685,000
帯広市	1	運営費	9,224,357	2,637,000	1,758,000	879,000
		小計	9,224,357	2,637,000	1,758,000	879,000
幕別町	1	運営費	2,739,458	756,000	504,000	252,000
		小計	2,739,458	756,000	504,000	252,000
本別町	2	運営費	1,649,870	1,208,000	805,000	403,000
		小計	1,649,870	1,208,000	805,000	403,000
浦幌町	1	運営費	1,402,598	756,000	504,000	252,000
		小計	1,402,598	756,000	504,000	252,000
釧路市	6	運営費	10,259,850	6,421,000	4,280,000	2,141,000
		小計	10,259,850	6,421,000	4,280,000	2,141,000
厚岸町	1	運営費	282,749	191,000	127,000	64,000
		小計	282,749	191,000	127,000	64,000
弟子屈町	1	運営費	419,527	308,000	205,000	103,000
		小計	419,527	308,000	205,000	103,000
白糠町	1	運営費	4,388,049	2,637,000	1,758,000	879,000
		小計	4,388,049	2,637,000	1,758,000	879,000
標津町	4	運営費	3,675,953	2,735,000	1,823,000	912,000
		活動	100,000	75,000	50,000	25,000
		小計	3,775,953	2,810,000	1,873,000	937,000
合計	141	運営費	176,898,143	108,206,000	72,132,000	36,074,000
		活動	1,418,841	775,000	514,000	261,000
		合計	178,316,984	108,981,000	72,646,000	36,335,000

※ 補助割合は、国2/4、都道府県1/4（間接分3/4）、市町村1/4です。

市町村	館数	区分	総事業費	補助基本額	国庫負担相当額	市費負担相当額
			A	B	(B×1/2) C	(A-C) D
札幌市	1	運営費	4,864,669	3,517,000	1,758,000	3,106,669
		活動	4,793,891	2,000,000	1,000,000	3,793,891
		小計	9,658,560	5,517,000	2,758,000	6,900,560
旭川市	2	運営費	14,356,517	4,526,000	2,263,000	12,093,517

※ 札幌市の数字は実績額、旭川市は実績(見込み)額

※ 札幌市(指定都市)及び旭川市(中核都市)の補助割合は、1/2です。

※ 注: 運営費=生活館運営費 : 活動=生活館活動推進事業費

(3) 生活相談員

生活相談員が31名配置され、生活相談業務が行なわれた。

市町村名	氏名	市町村名	氏名
札幌市	門脇こずえ 佐々木洋子	浦河町	堀悦子 八重樫志仁
千歳市	上野和広	様似町	大野徹人 古館牧子
室蘭市	相模香奈恵	えりも町	運上英昭 脇坂祐輔
苫小牧市	脇坂智春	旭川市	工藤 稠
登別市	芳賀美津枝	帯広市	白川ミチ子
伊達市	戸ノ崎郁美	芽室町	太田千代
白老町	小川康信 高野美和子	浦幌町	奥田珠美
むかわ町	佐々木義一 芦谷明美	釧路市	松本里美
平取町	増田貴司 阿部孝之 日川敏恵	白糠町	大谷 明
日高町	野島浩人	標津町	小林一志
新冠町	吉田明美	八雲町	多田光男
新ひだか町 静内庁舎	中鉢広記		

<農林漁業対策事業関係>

2 平成27年度アイヌ地区農林漁業対策事業実績

(単位：円)

市町村名	地区名	事業種目	事業主体	事業量	事業費
浦河町	荻伏	(整備事業) 漁業経営近代化施設	日高中央漁業協同組合	昆布保管施設 1棟200㎡	38,448,000
八雲町	八雲	(整備事業) 漁業経営近代化施設	八雲地区ホタテ共同会	共同作業場 1棟延 1,179.36㎡	197,726,400
		(推進事業) 漁業経営近代化施設		ホイールローダー 1台 フォークリフト 2台 運搬用トラック 2台 養殖作業施設関連機器 1式	136,095,070
新ひだか町	幌毛	(推進事業) 漁業経営近代化施設	幌毛機械利用組合	トラクター 1台 トラクター付属機 (フロントローダー、土砂バケ ット、ロールホーク各1台) ロータリーテッダー 1台	12,238,560
3市町3地区					384,508,030

<中小企業対策関係>

1 経営改善普及指導員活動実績

中小企業者のニーズに応え、経営改善普及指導員及び地元商工会と連携を図り下記の事業を実施した。

(1) 集団指導

開催日	開催場所	内 容	講 師	人数
平成28年 2月10日 (水)	平取町・商 工会館	小規模企業を取り巻く環境 変化と対応策について	(有)ケイ・エス・シー 代表取締役 笹 山 喜 市	20
平成28年 2月17日 (水)	白老町・経 済センター	小規模企業を取り巻く環境 変化と対応策について	(有)ケイ・エス・シー 代表取締役 笹 山 喜 市	14

(2) 経営改善普及指導員による個別相談等

区 分	金 融	税 務	経 理	経 営	労 務	取 引	その他	合 計
巡 回	5	0	0	18	0	0	1	24
窓 口	4	1	0	25	0	0	4	34
合 計	9	1	0	43	0	0	5	58

(3) 経営相談日の開設

- ① アイヌ協会事務所で毎週、月・火・金曜日 (9:00~17:00) を相談日として開設。
- ② 商工会連合会事務所で毎週、水・木曜日を相談日として開設。

総開設日227日 (うち、アイヌ協会事務所での開設日135日を含む)

<労働対策関係>

1 職業相談員活動実績

平成27年度15名が配置され、それぞれの地区において相談活動が行なわれた。

札幌職業安定所 阿部 一
 札幌東職業安定所 月山佳代
 札幌北職業安定所 川上容子
 千歳職業安定所 好田敦子
 函館職業安定所 相馬まり子（八雲出張所）
 旭川職業安定所 青野和恵
 室蘭職業安定所 上西静枝、小名幸子（伊達分室）
 釧路職業安定所 伊賀秀子
 帯広職業安定所 木村寿美子
 苫小牧職業安定所 宮尾直子
 浦河職業安定所 中田年枝、柴野仁子
 上村一枝、工藤明美（静内分室）

2 就職資金貸付実績

北海道労働局主管で扱った常用労働者に対する就職資金の平成27年度の利用実績は次のとおり。

区分	単 身		扶養家族（有）		計	
	人数	金 額(円)	人数	金 額(円)	人数	金 額(円)
室蘭	3	450,000		0	3	450,000
浦河	6	900,000		0	6	900,000
苫小牧	4	600,000		0	4	600,000
帯広	1	150,000		0	1	150,000
釧路	2	300,000	1	200,000	3	500,000
計	16	2,400,000	1	200,000	17	2,600,000

3 公共職業訓練手当支給実績

次の関係高等技術専門学院等でアイヌ子弟に訓練手当が支給された。

<施設内>

学 院 名	人数	内 訳
苫小牧高等技術専門学院	1	金属加工科 1年生 1名
合 計	1	

<施設外>

学 院 名	人数	内 訳
札幌高等技術専門学院	6	パソコン基礎科 6名
室蘭高等技術専門学院	1	保育士養成科2年生 1名
苫小牧高等技術専門学院	3	ITビジネス科 3名
〃	2	OA基礎科 2名
帯広高等技術専門学院	1	保育士養成科1年生 1名
釧路高等技術専門学院	3	IT基礎 3名
ポリテクセンター北海道	1	型枠施工実践科 1名
合 計	17	

4 機動職業訓練

地区 件の機動職業訓練が行われた。

区分	学院名	訓練科目	実施地	職安	実施期間		訓練状況			備考
					期間	月	定員	入校	修了	
道立	札幌	パソコン基礎科	札幌	札幌	12/1~2/27	3	20	13	10	
	苫小牧	ITビジネス科	浦河	浦河	1/7~3/22	2.5	10	9	8	
		OA基礎科	平取	苫小牧	1/5~3/18	2.5	10	10	9	
		介護職員基礎科	苫小牧	苫小牧	1/5~3/18	2.5	30			中止
		建築技術科	浦河	苫小牧	1/7~3/18	2.5	10			中止
		石材販売科	平取	苫小牧	1/5~3/18	2.5	10			中止
		情報基礎科	新ひだか	浦河	1/7~3/22	2.5	10			中止
	釧路	IT基礎科	釧路	釧路	12/10~2/25	2.5	10	15	11	
計						110	47	38		

<住宅対策関係>

1 住宅改良資金貸付事業

平成27年度住宅改良資金貸付事業の実績

(単位：円)

市町村名	住宅新築資金		住宅改修資金		宅地取得資金		合計	
	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額
豊浦町	-	-	1	1,569,000	-	-	1	1,569,000
合計	-	-	1	1,569,000	-	-	1	1,569,000

2 年度別建設実績

資金別 年 度	新 築 件	改 修 件	宅 地 取 得 件	合 計 件
昭和48年度	2	12	—	14
49	9	25	0	34
50	40	25	0	65
51	81	27	1	109
52	112	41	15	168
53	130	48	18	196
54	136	47	33	216
55	129	39	37	205
56	112	46	28	186
57	109	39	44	192
58	94	34	32	160
59	80	38	28	146
60	67	36	21	124
61	70	34	23	127
62	67	46	26	139
63	62	35	16	113
平成元年度	58	30	27	115
2	62	30	21	113
3	52	32	18	102
4	43	32	24	99
5	45	25	18	88
6	20	22	22	64
7	30	24	15	69
8	34	25	8	67
9	15	18	12	45
10	22	16	13	51
11	22	20	11	53
12	17	9	10	36
13	13	17	3	33
14	10	14	8	32
15	5	10	6	21
16	5	10	3	18
17	2	5	1	8
18	8	7	2	17
19	3	7	2	12
20	5	6	3	14
21	6	6	5	17
22	4	2	3	9
23	3	1	1	5
24	0	3	0	3
25	0	3	1	4
26	1	2	0	3
27	0	1	0	1
合 計	1,785	949	559	3,293